

事例 2

「書くこと」の言語活動を通して「春愁」を読み深める

1 育成を目指す言語能力

本単元は、文学的な文章を読んで、人物、情景、心情などを表現に即して的確にとらえる能力を育成するために計画したものである。学習指導要領の「現代文」の指導事項の「イ 文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと。」を指導の中心に取り上げ、「登場人物の様子や生き方、文章の舞台となる情景、人物の心情の推移を的確にとらえている。」という評価規準を中心にして評価する。言語活動例の「ウ 文章の理解を深め、興味・関心を広げるために、関連する文章を読んだり、創作的な活動を行ったりすること。」を参考に、主人公の立場、作品中の人物像、物語のその後などについて、考えたり感じたりしたことを書くという言語活動を通して、前述した能力を育成する。

なお、この実践は、事例 1 の「ナイン」に続いて実施したものである。

2 学習活動の概要

(1) 単元名 小説「春愁」(三浦哲郎)

(2) 単元の目標

- ① 人物の生き方や文章の展開の仕方などについて、自分の考えを深めたり広げたりする態度を身に付ける。 (関心・意欲・態度)
- ② 登場人物の様子や生き方、文章の舞台となる情景、人物の心情の推移を的確にとらえる。 (読む能力)
- ③ 文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解する。 (知識・理解)

(3) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
① 文章を読んで、表現に即して内容を的確に読み取ったり、人物の生き方や文章の展開の仕方などについて表現に即して読み味わったりして、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしようとしている。	① 登場人物の様子や生き方、文章の舞台となる情景、人物の心情の推移を的確にとらえている。	① 文や文章の組み立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。

(4) 指導と評価の計画(5時間)

時間	学習活動	指導上の留意点	単元の評価規準と評価方法
1	<p>主人公の立場で友情か恋かを考える</p> <p>(1)教科書本文を読む。</p> <p>(2)自分が「由良」の立場だったら友情を選ぶか恋を選ぶかを考えて、その理由を書く。資料1</p> <p>(3)その他、疑問・意見を書く。</p>	<p>○主人公「由良」の視点に立って本文を読ませる。</p>	<p>読む能力①</p> <p>(ワークシート資料1の記述の確認)</p>
2	<p>言語事項を理解する</p> <p>(1)漢字練習表資料5で漢字の読み書き、語句の意味を理解する。</p>		<p>知識・理解①</p> <p>(ワークシート資料5の記述の確認)</p>
3	<p>他者の意見を読んで自分の考えを深める</p> <p>(1)資料2で他者の意見を読み、自分の考えを深めて発表する。</p>	<p>○前時に集めた生徒の意見の例をプリントする。</p>	<p>読む能力①</p> <p>(発言の内容)</p>
4	<p>登場人物の人物像や印象深い場面について考える</p> <p>(1)段落ごとの人物の描写や会話文から、登場人物の性格や心情を読み取る。</p> <p>(2)登場人物の人物像を本文に即して読み取り、印象に残っている場面を選んで感想を書く。資料3</p>	<p>○さまざまな描写が、人間関係や心情を細やかに表現していることに気付かせる。</p>	<p>読む能力①</p> <p>(ワークシート資料3の記述の確認)</p>
5	<p>「春愁」の「その後」について考える</p> <p>(1)「春愁」の「その後」を予想した後、教科書掲載部分の前後の部分について出典からプリントした資料を読む。原作に描かれた「その後」と自分の予想とを比べて感じたことを書く。資料4</p>	<p>○「藤尾」の死、「奈緒」と「由良」の生き方などについて、考えを深めさせる。</p>	<p>読む能力①</p> <p>(ワークシート資料4の記述の確認)</p>

※「関心・意欲・態度」は単元全体を通して評価する。

3 評価の例

読みの視点（「友情か恋か」、「人物像」、「印象深い場面」、「『春愁』の『その後』」など）を与えて読ませ、考えをワークシートに記述させて、その内容を中心に評価した。

ほとんどの生徒が、「友情か恋か」選んだ理由を自分の立場に引き比べて書いている資料1、資料2。登場人物の「人物像」では、教科書本文の描写だけでなく、描写から想像したことなどを書いたものがたくさんあった資料3。

「印象深い場面」に関しては、A～Eの五つの場面の中から一つを選び、その理由を客観的な

視点からとらえたり主観的な立場でとらえたりして記述した例が見られた資料3。

『春愁』の『その後』に関しては、自分の予想と原作を比較して書くことによって、もの見方や感じ方が広げられたり深められたりした例が、多くの見られた資料4。

作品の設定やテーマが、生徒にとって身近なものであったため、平素は「書くこと」に対して消極的な生徒も、この単元では意欲的に学習活動に取り組み、指導者のねらいを概ね達成した。

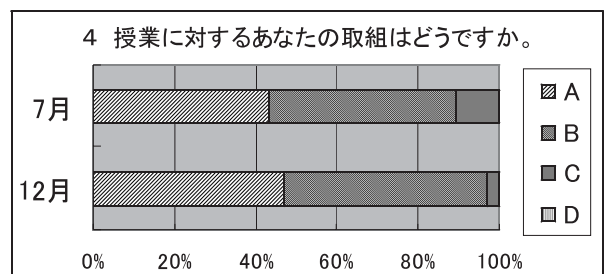
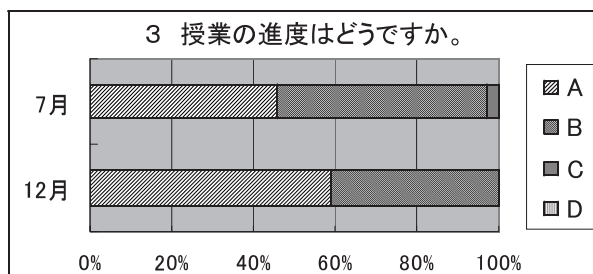
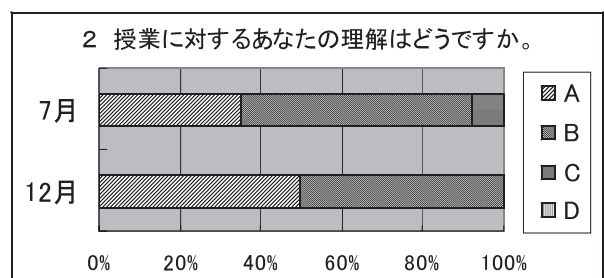
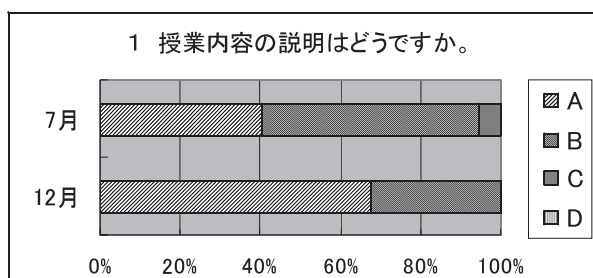
4 成果と課題

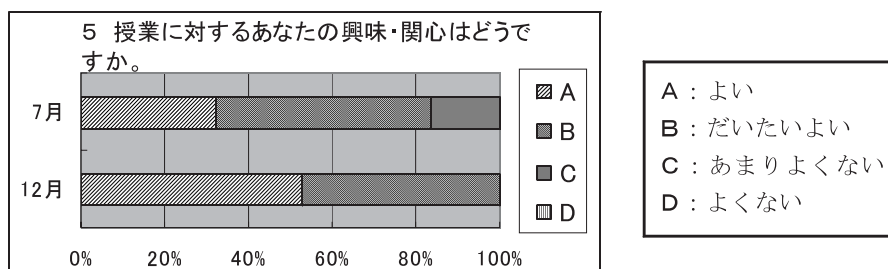
(1) 成果

文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて、考えや意見を書く言語活動を取り入れた実践を行った。生徒が登場人物の立場に立ちやすい視点を与えて考えさせたり、ポイントを絞って考えや意見を記述させたりした。普段は「書くこと」に対して消極的な生徒も、「もしも自分が友情と恋との板ばさみになったら」などという、親しみやすいテーマを与えることによって、学習活動への取組が活性化し、ほとんどの生徒が、ワークシートの記入欄に指導者が求める内容と量を満たす記述をしていた。

この実践では、作品の教科書掲載部分の後の場面を予想させる学習活動を取り入れたが、これはPISA調査で出題された「読解力」の問題の一つである、「熟考・評価」の問題にも通じるものである。欧米の国語教育で重視されているクリティカル・リーディング（作品についての熟考、評価）の能力は、例えばこのような指導によっても育まれることが期待できよう。生徒は、『春愁』の「その後」に関して、自分の予想と原作とを比べ、どのように違うのかを考え、感じたことをワークシートに書いていた。

なお、この実践は、9月に実施した事例1の「ナイン」に続いて、10月に実施したものであるが、この時期に前後して行った、生徒による授業評価（学校評価の一環として実施したもの）では、次のグラフ1～5にあるように、「現代文」の授業に関する生徒の評価が、総じて向上している。読むことに関して取り入れた、「読書へのアニマシオン」の手法を生かした指導や、書くことの言語活動を通じた指導などの成果が、生徒の学習状況の改善にも結びついたものと思われる。





(2) 課題

生徒は、感じたことや考えたことを書く活動には意欲的に取り組むため、書くことの言語活動を通して熟考させることはできた。しかし、自分の考えを人前で発表することには尻込みをしてしまう傾向が強いため、他の生徒の発表を聞いて、自己の考えを深めさせることは不十分だった。また、本教材のテーマである「友情と恋」については、人前で述べてにくいテーマであるため、この実践では、意見や感想を書いて提出させたワークシートを、教師がまとめてプリントにして生徒にフィードバックした。それによって、生徒が考えを深める際の材料とし、生徒相互の意見や感想の交流を図った。このように、この実践では、生徒の実態や扱ったテーマの内容から、書くことを通して読みを深めさせる指導を展開したが、話すこと・聞くことの言語活動を通して読みを深めさせる指導も工夫したい。

使用教科書

・『新現代文』大修館書店

参考文献

・有元秀文著『PISA型読解力を育てるための「読書へのアニメーション」』（「月刊国語教育」2006.11）東京法令出版

記入例 (生徒A)

『春愁』を読んで・・・あなたならどうする?・・・

組 番 氏名

1 あなたが由良の立場だったら、「友情」と「恋」のどちらを選びますか。よく考えて選び、○で囲んでください。

友 情 ・ 恋

2 1で選んだ理由を書いてください。また、その事態にどう対処するか考えて書いてください。
最後に奈緒に遠まわしに告白されて、自分が好きだといわれているのに彼女の思いに答えてあげられないのが、自分としてはよくないと思うから。

3 本文を読んで、疑問に思ったこと、よく分からなかったことがあったら、書いてください。
最後の一文は、どうしてあるのだろうと思った。

4 その他、感想を自由に書いてください。
あけなく人の死が出てくるので少し驚いた。

記入例 (生徒B)

1 あなたが由良の立場だったら、「友情」と「恋」のどちらを選びますか。よく考えて選び、○で囲んでください。

友 情 ・ 恋

2 1で選んだ理由を書いてください。また、その事態にどう対処するか考えて書いてください。
わたしがもし由良の立場だったら、奈緒のことをあきらめ、藤尾に託します。友情は一朝一夕でできるものではなく、日々の積み重ねてできるものなので、親友のためならあきらめます。

3 本文を読んで、疑問に思ったこと、よく分からなかったことがあったら、書いてください。
どうして最後に由良は「ウオー」と叫んだのか。

「友情」派の理由

- ・「友情」の方が「恋」より期間も長いく、お互いをよく知っていると思うから。
- ・奈緒をあきらめて藤尾に託します。
- ・例えば同じ部活動で、しかも友だち同士の仲で、同じ女の子を好きになってしまったら、違う意味でライバルになってしまったり、ギクシヤクした関係になりかねません。けれども、本音を言わず思いが伝わらないまま終わってしまったらもつと辛いと思います。小説では、藤尾が由良の前で堂々と宣言していたが、もし藤尾が何も言わずに奈緒にアタックしていたとしたら、由良としては悲惨だと思います。圧倒されて何も言えずに終わるのはとてもつらいけれども、これが最初で最後の恋ではないのだから、攻めがあると自分に言い聞かせて、こっちは相手に譲ります。
- ・「恋」をとりて友人関係がこじれてしまうことを考えると、「友情」を取ります。このまま波風を立てないように、身を引きます。後悔するかも知れないけれども、あの場面では何も言えません。

「恋」派の理由

- ・後悔したくないので、きちんと自分の気持ちを伝えます。もし、自分が奈緒と付き合うことになって、藤尾との仲が悪くなつたとしたら、藤尾とはそれまでの関係だつたと割り切ればいいことです。
- ・自分も奈緒のことが好きなのに、身を引くなんて情けない。しかも、奈緒も自分のことを好きなのに、藤尾に気を遣って返事をしないのでは後悔する。

「春愁」ワークシート(生徒記入例・複数の生徒の例をまとめて記載)

組 番 氏 名

1 登場人物三人は、それぞれどのような人物として描かれていますか。性格、容姿などを書いてみましょう。

- ① 由良
 - ・坊主頭 ・内向的 ・サッカー部 ・自意識過剰→藤尾に嫉妬 ・奈緒が好き。
 - ・恋よりも友情を大切にしている。ぶきらぼう
 - ・F Wで、バス、ドリブルが得意。勉強ができる。深く考えるタイプ。喜願。
- ② 藤尾
 - ・坊主頭 ・サッカー部 ・自信過剰→花屋の娘との結婚宣言 ・奈緒が好き。
 - ・友情よりも恋を大切にしている。花形選手、二十七歳で癌で死去
 - ・F Wで、エースストライカー。風邪をひいても学校に来るタイプ。周囲を気にしない。深く考えるタイプ。普通の顔。
- ③ 奈緒
 - ・セーラー服をきちんと着ている。三つ編みで小表色の肌、大きな目、ふくらとした頬、健康そう。花屋の娘。・中学を卒業して大人びた。 ・由良が好き。
 - ・いつも本を読んでいるタイプ。友人は少ない。

2 ノートにまとめたA～Eの中で、あなたが一番印象に残っている場面を選びましょう。その場面をよく読んで、特に印象深い部分を抜き出して下さい。そして、それを選んだ理由や感じたことを書きましょう。他の部分と関連付けて書いてもかまいません。

- A マラソン登校の場面(奈緒との出会い)
- B 門前の花屋での奈緒との再会の場面
- C 藤尾の決心に苦しむ由良
- D 奈緒が由良に告白する場面
- E その後の顛末(それぞれがどのような運命をたどったか)

選んだ場面の記号 (B)

その場面の中で特に印象深い部分

由良が奈緒にもらった水仙を牛乳瓶に差して、枯れても構わずに令宿が終わるまで出窓に飾っていたところ。

その部分について選んだ理由や、感じたこと。

水仙が枯れても飾り続けていたところに、由良の奈緒に対する思いの強さを感じる。やはり奈緒のことが好きでたまらないのだということが伝わってくる表現だ。

選んだ場面の記号 (E)

その場面の中で特に印象深い部分

藤尾は東京の大学に入学し、サッカー部で花形選手になり、花屋の娘と結婚して一児をもうけた。不運なことに、まだ三十という若さで癌に命を取られてしまった。

その部分について選んだ理由や、感じたこと。

藤尾は奈緒と結婚できたけれども、癌で死んでしまって、幸せにはなれなかった。奈緒は由良と結婚したたのびてきなかったし、結婚した人は死んでしまって、幸せにはなれなかった。由良は苦渋の選択で友情を取り、奈緒と一緒になれず、幸せにはなれなかった。人の幸せは、その人自身の考え方にもよるけれども、客観的に見れば、結局三人とも幸せになれなかった。しかし、三人とも不幸極まる人生ではないので、それでよかったと思う。

『春愁』の「その後」を予想してみよう（生後記入例）

組 番 氏名

- 1 藤尾の死後、由良と奈緒はどうなったと思うか、予想して書いてみよう。

(生後C) たぶん結婚して、感動的なほど幸せになるのではないかな。

(生後D) もともと両思いだったのだから、きっと結婚して幸せになると思う。

- 2 参考プリントで読んだ原作の「その後」は、自分の予想と比べてどうでしたか。

ア 予想とたいたい合っていた。

イ 予想外の展開だった。

- 3 2でイを選んだ人は、自分の予想とどのように違っていたかを具体的に書いてみよう。

(生後C) 由良と奈緒が、それぞれ違う人と結婚しているところ。

(生後D) 由良と奈緒は、結局最後まで結婚しないところ。

- 4 自分の予想と、原作の「その後」を比べて、どのような感想をもちましたか。

(生後C) 藤尾さえ生きていれば、奈緒はこんな人生を歩まずに済んだ。由良も奈緒を受け止めることができず、二人とも悲しい思いを胸に秘めている。初めてこの小説を読んだときは、由良の友情がきれいだと感じたが、今になってみると高校生のとき由良が奈緒を選んだほうがよかつたのではないかと思直した。

しかし、この小説はうまくいかないところが、ある意味リアルなのかなとも思った。

(生後D) ちよつと驚いた。教科書の本文だけを読んだときは、由良が奈緒との恋を諦めて友情を取ったのをおいことだと思っていた。しかし、全体を通して読んでみると、奈緒がとてもかわいそうなのが際だつて伝わってくる。

由良が、友情より、奈緒への思いを取って結婚してあげた方がよいように感じた。

漢字	読み	書き	書き	書き	意味
鍛える					
運搬					
内緒					
鼓動					
間隔					
厚かましい					
芸当					
嫉妬					
の域を脱する					
素っ気ない					
装う					
駆け戻る					
灯台もと暗し					
空咳					
大儀					
感服					
お辞儀					
牛乳瓶					
唐突					
悶々					
絶妙					
無愛想					
苦心					
勝ち誇る					